

平成23年度 第1回学校評議員会

1 日 時 平成23年6月2日(木) 10:00~12:00

2 場 所 本校会議室

3 出席者 学校評議員 A氏(地域代表)
B氏(保護者代表)
C氏(関係機関代表)
D氏(福祉・行政代表)

以上4名(欠席:E氏 地域教育機関代表)

学校職員 校長 副校長 事務長 総括教務主任 小学部長
中学部長 高等部長 寮務主任 支援センター部長
以上 10名

4 授業参観 10:00~10:40

5 学校評議員会 10:45~12:00

(1) 学校長挨拶

4月に赴任したので、よろしくお願ひしたい。

今年度、52名の新入生が入り、186名の児童生徒でスタートした。「開かれた学校づくり」においては、このように外部の方から意見を伺う会議が大切である。忌憚のないご意見をいただき、有意義な学校評議員会にしたい。

(2) 議題

ア 平成23年度学校概要について(吉田副校長)

別紙資料等により、在籍児童生徒数、出身地区、分教室、寄宿舎等について説明。

イ 平成23年度学校運営方針について(校長)

別紙資料等により、教育目標、学校運営の重点、課題等について説明。

○課題

- ・施設の狭隘化
- ・児童生徒の障がいの多様化、重複障がい化への対応のための専門性の向上
- ・危機管理、特に寄宿舎における夜間時の地震等への対応

ウ 平成23年度進路状況について(高等部主事)

別紙資料等により、進路の状況について震災の影響等も含めて説明。

エ 平成23年度入学・転入学の状況について(吉田副校長)

別紙資料等により、入学手続きも含めて説明。

オ 平成23年度各学部運営方針について(各学部・分掌主事等より)

《小学部》

前年度までの取り組みに加え、体力作りに取り組んでいる。キャリア教育の視点に立った学部研修会も実施する予定である。

《中学部》

キャリア教育の一環として、あいさつ運動の充実、また、路線バスやJRの利用など経験の拡大を図り、将来に結びつけることを狙っている。また、居住地校交流に取り組んだり、地域との交流として「かあちゃん市」を年間10回実施したりするなど、地域社会に向けて発信していきたい。

《高等部》

最終出口として、社会参加と自立を目指している。5分前行動、さわやかな挨拶、長時間働けるための体力作り、自分の記録に挑戦していくトライスポーツ、校内・産業現場等実習などもその一環である。

《北上分教室》

中部病院にて病気療養中の児童生徒を対象に、学習の機会を保障している。病棟との連携も良好で、分教室の活動の様子を作品展示、新聞の掲示等により病院を訪れた人に知ってもらうようにしている。

《遠野分教室》

遠野小学校と一緒に環境で学習できるということで、日常的に交流及び共同学習が行われており児童の学習の刺激になっている。また、今年度は遠野小学校の修学旅行に参加させていただいている。来年度は、遠野分教室の中学部も開設される予定である。

《寄宿舎》

遠距離で通学困難なお子さんを対象に、学校や家庭と連携しながら運営している。震災の際には消防団が安否確認に訪問して下さるなど、地域に支えられている。星まつりも、卒業生や地域の方々など多くの方の参加を呼びかけて行う予定である。

《特別支援教育センター》

3市1町の特別支援教育を推進している。パンフレットを作成し、小・中学校、幼稚園などに配布しており、昨年は相談件数156件、延べ人数489人に対応している。今年度は、継続型訪問支援を16校を対象に実施している。地域の特別支援教育のセンター校としての役割を果たしながら、インクルーシブ教育の推進につなげていきたいと考えている。

(3) 意見交換・提言

A氏：授業を拝見した感想としては、小学部は子供達がのびのびと楽しそうに授業に取り組んでいる。自立とともに思いやりも大事に育てていきたいと目標に掲げており、子ども同士で助け合う様子も見られた。中学部では、職員に生徒の発表を待つ姿勢があり、必要な場面では誘導するなど上手に支援がされていた。高等部では、自分たちが作った製品に自分たちで値段を付けるなど、自立を目指し、自分たちで考えさせる

ことや一人一人の意見を大事にするという姿勢が見られた。

B氏：車椅子やバギーなどを使用する、特別な配慮を要する児童生徒が増えてきている。トイレや、移動する通路など施設設備の改善が望まれる。特に、高等部の身障者用トイレは使用しにくいので、改善が必要である。また、障がいをもつ児童生徒の親として、あじさい特別支援教育センターが活用されていることをうれしく思う。

学校から：高等部のトイレは、夏休みをめぐりに改修予定である。既存のトイレのある場所を車椅子用トイレに改修し、シャワーもつける予定である。

C氏：自分が勤務している施設に高等部卒業生2名が通っているが、スムーズに活動できている。在学中の現場等実習の成果と思われる。環境整備班もいい作業であり、本事業所でも清掃に来ていただきたいと考えている。また、学校教育としてキャリア教育も大事だが、楽しみも大事であり、運動会など行事の削減は検討を要するのではないかと。それから、居住地との交流は大事にしてほしい。支援学校に在籍していると、学校では友達がいても地域では友達がいないということがある。自分の家の周りに友達がいることは将来につながるのだから、1～2回の交流でも有効である。

学校から：環境整備班については、メンバーも替わっており、腕を磨いてから要望にお応えしたい。居住地校交流は、いわて特別支援教育推進プランにより、交流相手校である小・中学校に副籍をおいて交流及び共同学習を実施することになった。居住地校交流を制度的に整備することになり、年度初めに計画を取り交わし、評価もきちんと行うものである。今年度は、花巻市を含む五市町村で実施し、24年度からは全県での実施となる。

D氏：本校を訪問すると、子供達が積極的に挨拶をしてくれる。本校の目標にも掲げられているが、挨拶は相手に好印象を与えるものであり、進路においても大事なことである。

A氏：本校で行っている陶芸教室ではお世話になっている。このような地域との連携もずっと続けていただきたい。「かあちゃん市」などが開かれていることは、地域ではあまり知られていない。興味をもっている方もおり、PRをしていただきたい。

C氏：東日本大震災の影響で、沿岸から内陸に連れられ施設を利用している人もいますが、本校に転入生はいるのか。

学校から：本校には該当者はいないが、他の支援学校には、住居を無くして内陸の施設に入所し転校した生徒もいる。

ほかに、熊の出没情報など地域からの情報などご協力をいただいている。地震については対応を検討中で、マニュアルなどを整備していく予定である。それから、ホームページなどで本校も情報発信を行っているが、今後、さらに発信方法を工夫していきたい。